

昭和五十九年六月八日

トヨタ、スポーツテイ パーソナルカー
「トヨタ MR2」を新発売

——日本初のミッドシップ方式を採用——

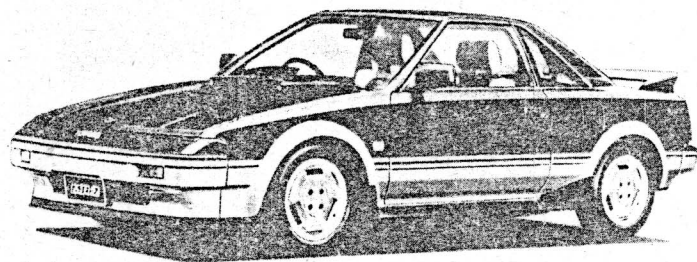
トヨタ自動車(株)は、日本で初めてミッドシップ方式を採用した、二人乗りのスポーツテイ パーソナルカー「トヨタMR2」(MR2は、Midship Runabout 2 seaterの略)を六月八日より全国のトヨタオート店及びトヨタビスタ店で、一斉に発売する。

※Runaboutとは「きびきびと走る小型車」の意。近年のモータリゼーションの成熟化に伴い、車の使用用途の多様化が進むとともに、複数保層や女性ドライバーの増加などが顕著になってきた。

また、走行性能が高く、Fun To Driveで気軽に乗れる車を求めるお客様が増加し、一層の個性化が進展している。

こうした用途の多様化などに伴う市場の要望をふまえて開発したのが、全く新しいジャンルのミッドシップ 2シーター「トヨタMR2」である。

特に、ミッドシップカーといえば、極めて高価な車とみられてきたが、「トヨタMR2」は、魅力的な価格を設定し、より幅広いお客様にお求めいただけるものとしている。



トヨタMR2 1600G-リミテッド

ミッドシップ方式とは、FF方式やFR方式とは異なり、客室と後車軸との間にエンジンを配置し、後輪を駆動する方式であり、スポーティな二人乗り乗用車に適している。

この方式は、車両前後の重量配分をより適正にし、ヨーイングの慣性モーメントが小さくできるため「走る」、「曲がる」、「止まる」の三つの基本性能に優れている。

今回、新発売される「トヨタMR2」は、ミッドシップのメカニズムを極めて高い次元でバランスさせたもので、高い走行性能はもちろん居住性や静粛性も含め、スポーティパースナルカーとして、また気軽に乗れるセカンドカーとして幅広い用途に応えうるものとしている。

「トヨタMR2」の開発にあたり、特に重視した点は次の五点である。

一、オリジナリティの高い斬新なスタイル

1. ミッドシップ 2シーターの特徴を最大限に活かし、新時代のオリジナリティの高い斬新なスタイルとしている。

2. フロント部は、リトラクタブルヘッドランプを備えた広く低いフード、面一で包み込むようなカロードソフトフェイスパーバンパーなどにより、滑らかでシンプルにまとめている。

3. これに対し、リヤ部は、直立バックウィンドウや、精悍なリヤスポイラー、デュアルエキゾーストなどにより、メカニカルで力強いイメージを表現している。

二、使い易く個性的な居住空間

1. 低いインストルメントパネルにより広々とした良好な視界と、快適なドライビングポジションを確保し、あわせて乗降性を容易にするなど海外のミッドシップカーには見られない使い易く個性的な居住空間としている。

2. また、新設計の7ウェイスポーツシート、機能的なドアポケット一体式成形ドアトリム、独創的なデザインの計器盤などを採用している。

三、ミッドシップ方式の特徴を最大限に活かした操縦性・走行安定性・乗り心地

1・ミッドシップ方式、ワイドトレッド、低い重心、新時代のサスペンション〈PEGASUS〉により優れた操縦性・走行安定性、乗り心地を実現している。

2・フロントサスペンションにはマクファーソンストラット式独立懸架、リヤサスペンションにはデュアルリンクストラット式独立懸架を採用し、操縦性・走行安定性、乗り心地を高い次元で両立させている。

また、ラック&ピニオン式ステアリングを採用し、スポーティカーとしての軽快なハンドリングを確保している。

3・さらに、エンジンマウントの工夫などにより静粛性を、また四輪ディスクブレーキにより、安定した制動性能を確保している。

◎ミッドシップ方式の特徴

- ① 走る——後輪荷重（駆動輪荷重）が大きいので、駆動力が高く加速性能が良い。
- ② 曲がる——重量配分が適正で、かつヨーイングの慣性モーメントが小さいため、抜群のコーナリング性能をもっている。
- ③ 止まる——適正な重量配分により、制動性能が良い。
- ④ 空力特性——低くスラントしたフードと低い車高などにより、空力性能に優れている。

四、高性能・低燃費の実現

「トヨタMR2」には、横置きミッドシップ用に改良した次の二機種の高性能・低燃費レーザエンジンを搭載している。

1・〈レーザα4Aツインカム16〉（4AGELU型）は、四気筒ツインカム16バルブエンジンであり、TVIS（トヨタバリアブルインダクションシステム）やEFIーDなどの組合せにより、ミッドシップにふさわしい動力性能と、低燃費を達成している。

また、五速マニュアルトランスミッションに加え、電子制御式2ウェイオーバードライブ付四速オートマチックトランスミッション（ECTIS）を設定し、優れた燃費、ドライバビリティを確保している。

五速マニュアルトランスミッション車の10モード燃費は一二・八km/ℓ（運輸省審査値）、60km/h定地走行燃費は二二・五km/ℓ（運輸省届出値）となっている。

2. 〈レーザー3A-II〉(3A-LU型)は、SCV(スワールコントロールバルブ)付ヘリカルポートなどを採用し、低燃費・高性能を両立させている。

また五速マニュアルトランスミッションに加え、2ウェイオーバードライブ付四速オートマチックトランスミッションを設定している。

五速マニュアルトランスミッション車の10モード燃費は一五・〇km/ℓ(運輸省審査値)、60km/h定地走行燃費は二六・〇km/ℓ(運輸省届出値)となっている。

エンジン	排気量(cc)	最高出力(ps/rpm)	最大トルク(kg・m/rpm)
4AGELU	一、五八七	一三〇/六、六〇〇	一五・二/五、二〇〇
3ALU	一、四五二	八三/五、六〇〇	一二・〇/三、六〇〇

五、魅力ある新装備

「トヨタMR2」には、グレードに応じて次の様な新装備を標準またはオプション設定している。

- ① 換気性、開放性に優れた脱着可能なリムーバブルムーンルーフ。
- ② スポーティなスタイルを強調し、空力特性の向上をねらったフロントスポイラー、リヤスポイラー、ルーフスポイラーなどのエアロパーツ及びサイドマッドガード。
- ③ フロントスピーカーに、ウーハーを加え、低音から高音まで幅広い音域をカバーするフロント3ダイメンションスピーカーシステム。
- ④ カセットテープや小物の収納に便利なリヤコンソールボックス。
- ⑤ 快適なドライビングポジションを確保する新設計の7ウェイスポーツシート。

なお、当面の国内月販台数は二、〇〇〇台を見込んでいる。

また、「トヨタMR2」の店頭発表会は、六月二十三日(土)、六月二十四日(日)の両日、全国のとヨタオート店、とヨタビスタ店で実施する。

「トヨタMR2」の車両概要、車種体系、価格、主要諸元は別紙の通りである。

以上

〈車両概要〉

一、オリジナリテイの高い斬新なスタイル

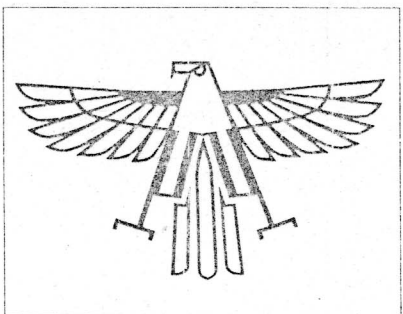
1. フロントスタイル

フロント部は、良好な視界を確保した低いフード、ボデー面と面一化した大型カラードソフトフェイシャーバンパー、リトラクタブルヘッドランプ、そしてフロントスポイラーなどにより空力特性(Cd \approx 0.34)に優れた滑らかでシンブルなスタイルとしている。

2. リヤスタイル

リヤ部は、直立バックウインドウ、サイドエアインレットやエンジンルームハッチルーバーによりミッドシップ 2シーターを象徴し、精悍で空力特性に優れたルーフスポイラー、リヤスポイラー、さらにはデュアルエキゾーストなどによりメカニカルで力強いスタイルとしている。

3. シンボルマーク



シンボルマークは、鷲鷹類の「進化による空力的な美しさ」、「敏捷」、「力強さ」を「トヨタMR2」のイメージのシンボルとして表現したものである。

二、使い易く個性的な居住空間

1. 快適なドライビングポジション

- (1) 低いインストルメントパネルにより広々とした良好な視界を確保し、さらに乗降性を向上させているなど実用的な室内空間としている。
- (2) 広いレッグスペースに加え、フットレストを設定し、操作し易いペダルレイアウトとしている。さらに、ステアリングホイール、ステイックタイプシフトレバー、パーキングレバーレイアウトを最適にし、快適なドライビングポジションを確保している。

2. 使い易く個性的なインテリア

七つの調節機構のついた新設計の7ウェイスポーツシート(Gーリミテッド)、機能的なアームレスト・ドアポケット一体形成ドアトリム、運転機能を集約した計器盤を組み込んだ使い易く斬新なデザインのインストルメントパネルなどにより、個性的な室内空間としている。

3. 使用性・便利性の追求

(1) ワンタッチオープン灰皿、指先で操作可能なライト&ワイパースイッチなどにより使用性・便利性の向上を図り、さらにシート後部の小物ラック、スペースやフロントトランク、リヤトランクにより、優れたスペースユーティリティを確保している。

(2) また、フロントトランク、リヤトランク、エンジンルーム、フューエルタンクの四つのオープンナーも設定している。

三、ミッドシップ方式の特徴を最大限に生かした操縦性・走行安定性、乗り心地

ミッドシップ方式と、新時代のサスペンション〈PEGASUS〉により、優れた操縦性・走行安定性、乗り心地を実現。

1. ミッドシップ方式の採用

ミッドシップ方式に加え、ガンリントラックを車両中央部に設置して、液量変化の影響を少なくし、適正な前後重量配分を実現している。これらの結果、優れた加速性能やコーナリング特性を確保するとともに、小さなヨーイングの慣性モーメントにより、きびきびとした運動性能をもっている。

2. 新時代のサスペンション〈PEGASUS〉の採用

(1) ストラット式四輪独立懸架

① フロントサスペンションには、直進性、操縦性にすぐれたハイキャスタ・シートレール、接地性と乗り心地に優れた低圧ガス封入式ショックアブソーバー、ボールジョイント式スタビライザーなどを組合せたマクファアソンストラット式独立懸架、リヤサスペンションには、キャンバー角を、ネガティブキャンバーにし、直進性、操縦性、乗り心地に優れたデュアルリンクストラット式独立懸架を採用している。

② また、アンチダイブ・アンチリフト&アンチスクオットジオメトリにより、加速、制動時の姿勢変化を小さくしている。

(2) 四輪ディスクブレーキ

安定した制動性能を確保するため、四輪ディスクブレーキを採用している。(G系のフロントにはベンチレーテッドディスクブレーキを採用している。)

四、高性能・低燃費の実現

「トヨタMR2」には、ミッドシップ用に改良した次の二機種の高性能・低燃費レーザエンジンを搭載している。

1. 〈レーザーα4Aツインカム16〉の搭載

〈レーザーα4Aツインカム16〉は、DOHCを採用した四気筒ツインカム16バルブの横置きエンジンであり、TVIS（トヨタバリアブルインダクションシステム）やEFI-Dなどの組み合わせにより、高性能を実現し、五速マニュアルトランスミッション車の10モード燃費は一二・八km/ℓ（運輸省審査値）、60km/h定地走行燃費は二二・五km/ℓ（運輸省届出値）と高い数値を示している。

エンジン	排気量(cc)	最高出力(ps/rpm)	最大トルク(kg・m/rpm)
4A1GELU	一、五八七	一三〇/六、六〇〇	一五・二/五、二〇〇

10モード燃費(運輸省審査値)	60km/h定地走行燃費(運輸省届出値)
一二・八km/ℓ	二二・五km/ℓ

2. 〈レーザー3A1II〉の搭載

〈レーザー3A1II〉は、低燃費・高性能を両立させたエンジンであり、SCV（スワールコントロールバルブ）付ヘリカルポートなどの採用により、最高出力八三馬力（五六〇〇rpm）で、五速マニュアルトランスミッション車の10モード燃費は一五・〇km/ℓ（運輸省審査値）、60km/h定地走行燃費は二六・〇km/ℓ（運輸省届出値）と優れた値を実現している。

エンジン	排気量(cc)	最高出力(ps/rpm)	最大トルク(kg・m/rpm)
3A1LU	一、四五二	八三/五、六〇〇	一一・〇/三、六〇〇

10モード燃費(運輸省審査値)	60km/h定地走行燃費(運輸省届出値)
一五・〇km/ℓ	二六・〇km/ℓ

また、両エンジンともクロスフロータイプラジエーターをフロント部に設置し、電動クーリングファンを必要時のみモーターで駆動して、燃費、騒音の低減をはかるとともに、暖機性能、冷却性能を向上させている。

3. トランスミッション

〈レーザーα4Aツインカム16〉には、エコノミー・パワー・マニュアルの三つの走行パターンを選択することにより、各種走行状態に最適な走行が可能な電子制御式2ウェイオーバードライブ付四速オートマチックトランスミッション(ECTIS)を、

また「レーザー3A-II」には、油圧制御式2ウェイオーバードライブ付四速オートマチックトランスミッションを設定し、優れた燃費・ドライバビリティを確保している。

五、魅力ある新装備

「トヨタMR2」には、グレードに応じて次のような新装備を標準またはオプション設定している。

- ① 換気性・快適性に優れ、取りはずしてフロントトランクに収納できるリムーバブルムーブルーフ。
- ② スポーティなスタイルを強調し、空力特性の向上を図ったフロントスポイラー、リヤスポイラー、ルーフスポイラーなどのエアロパーツ類及び泥はねを防止するサイドマッドガード。
- ③ インストルメントパネル左右の上向きスピーカーに加え、シート下部に設置したウーハーにより、低音から高音までの幅広い音域を実現したフロント3ディメンションスピーカーシステム。
- ④ カセットテープや小物などの収納に便利なリヤコンソールボックス。
- ⑤ 快適なドライビングポジションを確保する新設計の7ウェイスポーツシート。
- ⑥ スイッチ操作で左右のウィンドウの開閉ができる電動パワーウィンドウ、ワンタッチでドアをロック、アンロックできる電磁式ドアロック。

◎トヨタMR2 主要諸元表

[車両型式・重量・性能・変速比]

車種		1600G-Limited/G		1500S	
ミッション		5速マニュアル	ECT-S	5速マニュアル	2ウェイOD付 4速フルオートマチック
車両型式		AW11-WCMQF	AW11-WCPQF	AW10-WCMSS	AW10-WCPSS
車両重量※1	kg	940	970	920	950
車両総重量※1	kg	1050	1080	1030	1060
最小回転半径	m	4.8		4.8	
燃料消費率	60km/h定地走行 (運輸省届出値) km/ℓ	22.5	22.5	26.0	26.0
	10モード走行 (運輸省審査値) km/ℓ	12.8	11.4	15.0	12.4
変速比	第1速	3.166	2.810	3.545	2.810
	2	1.904	1.549	1.904	1.549
	3	1.310	1.000	1.310	1.000
	4	0.969	0.706	0.969	0.706
	5	0.815	—	0.815	—
	後退	3.250	2.296	3.250	2.296
減速比		4.312	3.837	3.941	3.837

※1 リヤスポイラー ルーフスポイラー装着車の場合は10kg増加します。●燃料消費率及び車両重量、変速比などの数値は、ミッションタイプ別に区別してあります。●燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時にはこの条件（気象、道路、車両、運転、整備などの状況）が異なってきますので、それに応じて燃料消費率は異なってきます。

◎トヨタMR2 車種体系

エンジン	トランスミッション	グレード		
		S	G	G-リミテッド
3A-LU (1,452cc)	5M/T	○		
	4A/T	○		
4A-GELU (1,587cc)	5M/T		○	○
	4A/T (ECT-S)		○	○

◎トヨタMR2 標準価格

(スベアタイヤ、標準工具一式付 単位：千円)

車種	エンジン	グレード	トランスミッション	東京	名古屋	大阪
トヨタMR2	3A-LU	S	5M/T	1,395	1,390	1,395
			4A/T	1,642	1,637	1,642
	4A-GELU	G	5M/T	1,642	1,637	1,642
		リミテッド	5M/T	1,795	1,790	1,795

※ 2ウェイオーバードライブ付4速オートマチック車は、5速マニュアル車に比べ79千円高。

電子制御式2ウェイオーバードライブ付4速オートマチック(ECT-S)車は、5速マニュアル車に比べ99千円高。